企画展

# 「朝倉氏１００年と大野」

## ～特別公開・伝 朝倉義景念持仏～



伝 朝倉義景念持仏「観音菩薩立像」
洞雲寺 蔵

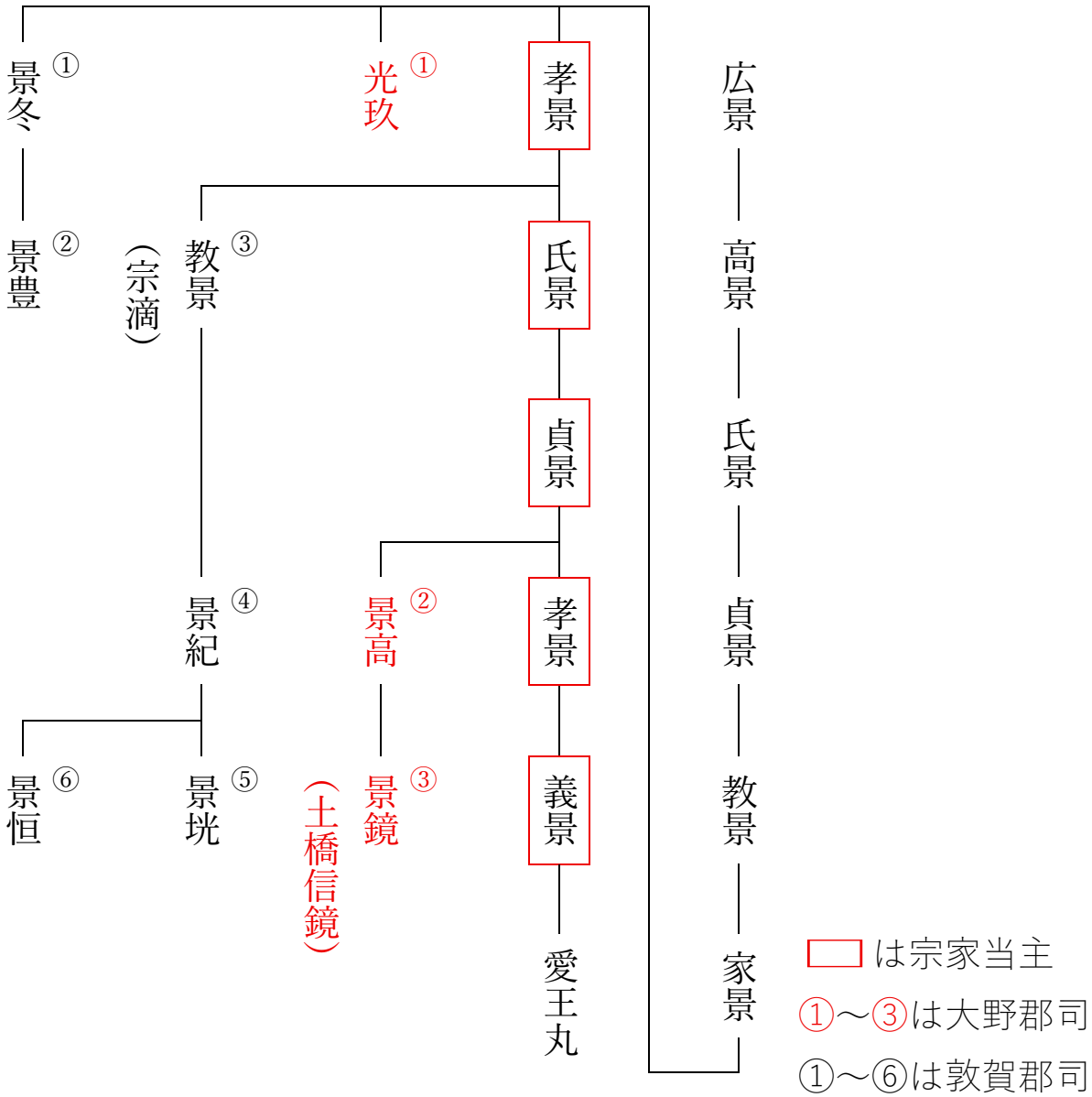
令和８年８月１１日（火）～９月２７日（日）

大野市歴史博物館

# 朝倉氏とは

朝倉の名字は、発祥地（本貫）である但馬国養父郡朝倉（兵庫県養父市八鹿町朝倉）が由来となっています。

但馬朝倉氏から分かれ越前に移った系統が「越前朝倉氏」で、越前国守護・斯波氏に仕えて、甲斐氏、織田氏に次ぐ斯波三守護代の第三席となり、後に戦国大名として越前国を治めました。



# 大野郡で決着した越前平定

応仁の乱（応仁元年（1467）～文明９年（1477））が起こると、朝倉孝景（英林）は西軍の主力として活躍しましたが、足利義政（室町将軍・東軍）の「越前一国の支配権を認める」という御内書を受けて東軍に寝返り、一転して越前の攻略を開始しました。孝景（東軍）と越前勢の主力・甲斐氏（西軍）との攻防戦は幾度と繰り広げられましたが、文明６年(1474)に和睦がなされ、残る勢力は大野郡だけとなりました。

文明７年(1475)２月、朝倉軍は二宮氏(西軍)が拠点としていた戌山城（犬山）に夜討ちを敢行しました。４月には味方であるはずの斯波義敏（東軍）が二宮氏（西軍）の籠もる土橋城（日吉町）に入り込んだことで朝倉軍（東軍）の攻撃が中断するという事態もありましたが、１２月、この土橋城の戦いで勝利を得たことで、朝倉氏はようやく越前支配を確定させることができました。

**斯波氏の抵抗**　応仁の乱が終結した後も、斯波氏は越前支配の復活を試みて越前国内の各地で戦を仕掛けましたが、こうした軍事的抵抗は、文明１３年（1481）の小山城（北御門・猪島・森政領家）での戦いが最後となりました。

# 朝倉氏の越前支配の方法

朝倉氏は、一乗谷（福井市）に奉行人や奏者（訴訟取次者）を置いて、越前国全体の民政、軍政を担わせました。これとは別に、府中（越前市）に府中奉行を設置して、南越地方（越前市・鯖江市・丹生郡・南条郡）の訴訟の処理や徴税を分担させました。また、北庄（福井市）・水落（鯖江市）・織田（越前町）など交通・商業の要衝には代官を置きました。

一方で、敦賀郡と大野郡には「郡司」という、奉行や代官より自律性の高い役職を配置しました。これは、①他国に接する、②巨大な宗教勢力（気比神宮・平泉寺）を包括している、という点で、朝倉氏が両地を重要視していたことを示します。

**大野郡司年表**

| | |
|---|---|
| **朝倉光玖** | **1477～1494** |
| **直　　轄** | **1494～1504** |
| **（不明）** | **1504～1523** |
| **朝倉景高** | **1523～1536** |
| **（不明）** | **1536～1540** |
| **直　　轄** | **1540～1568** |
| **（不明）** | **1568～1570** |
| **朝倉景鏡** | **1570～1573** |

初代大野郡司は、孝景（英林）の弟・光玖が務めました。永禄９年(1566)には義景の従兄弟・景鏡が足利義秋（義昭・室町将軍）から式部大輔に任ぜられ、朝倉同名衆のなかでも特別に高い地位を得て大野郡司となりました。

# 大野郡司 朝倉光玖

初代大野郡司・光玖（孝景（英林）の弟）は幼少の頃に出家していたためか、文明７年（1475）の土橋城（日吉町）での戦いの後、敵方の戦没者を弔うために時宗の道場を建て、のちに天台僧・真盛を招いて法要を修しました。この念仏堂が蓮光寺（日吉町）・青蓮寺（廃寺・日吉町）です。また、文明１３年（1481）の小山城（北御門・猪島・森政領家）での戦いの後には、隣接する北御門古墳（円墳・北御門）に一字一石経（小石に経文を１文字ずつ書き写した「経石」）を納めて経塚にしたと伝わります。こうした慰霊は、敵対者からの禍根を減らすほか、領民のなかに生じた「侵略者」としてのイメージを払しょくするなど、以後の領国支配を円滑に行うためにたいへん重要な観点でした。

明応２年（1493）の朝倉氏による上洛の際、光玖の被官が率いる大野兵「馬上８騎、歩卒３５０人ばかり」が都を行進しましたが、ここには雑兵が混じっておらず、都の人が、全員が甲冑を着けていることに驚いたと伝わります。光玖が大きな勢力をもって大野郡支配に当たっていたことを示すエピソードです。

# 朝倉氏五代の終焉

天正元年(1573)、織田信長と敵対していた朝倉義景は、８月の刀根坂（滋賀県長浜市）の戦いで大敗しました。その後の様子について、後世の軍記物「朝倉始末記」には次のように記されています。

・再起を図り豊原寺（坂井市）への退却を決意したが、大野郡司・朝倉景鏡が「平泉寺（勝山市）からの支援」を理由に大野郡への退却を勧める。

・８月１６日朝、義景は愛王丸（子）、広徳院（母）、数十の兵を伴い、一乗谷（福井市）を出立。午後８時ごろに洞雲寺（清瀧）に到着。

・８月１７日、義景は平泉寺に協力を求める書状を送るが、平泉寺は信長に味方することを決議。景鏡も平泉寺に書状を送り、義景を裏切ることを告白して同意を求める。

・８月１９日、景鏡は義景に、「洞雲寺は景鏡の陣所から離れているので六坊賢松寺（不明）へ移るように」と誘い出す。

・８月２０日、景鏡の裏切りにより襲撃を受けた義景は自害。

こうして、朝倉氏五代・１０３年の栄華が大野で幕を閉じました。

# 洞雲寺

大野郡に逃げ延びた朝倉義景が最初に入った洞雲寺は、康正元年(1455)、斯波氏の被官・二宮氏が縫原（福井市）に創建したことに始まる曹洞宗寺院です。朝倉氏歴代の保護を受けて寺勢を強め、数カ寺の末寺を抱える大野郡屈指の勢力を誇りました。

その勢力は世俗方面にも延び、天文１５年(1546)には斎藤彦右衛門とともに盛沢寺(不明)を接収するために軍勢を伴って迫ることがありました。また、永禄１０年(1567)７月２３日には朝倉氏の奉行人によって境内に陣を張ることが禁止されています。背後に山が迫り、前面の赤根川が天然の堀の役割を持つ地勢により、洞雲寺に対しては特にこうした注意がなされたようです。再起を図る義景が拠点と定めたことや、裏切ろうとする景鏡が義景を洞雲寺から誘い出したことも、観点は同じと考えられます。なお、こうした世俗的な勢力伸長は、乱世にあって信仰を続けるために必要な措置とされていました。



※ 洞雲寺は何度か移転をしており、当時は、野口（大野市役所の近辺）に建っていたとする説もあります。

# 朝倉義景墓所



【来歴】

・寛政１２年（1800）に上中野の花倉家（松田家・豪農・朝倉氏の旧臣または一族といわれる）が曹源寺（明倫町）の境内に建立。

・文政５年（1822）に花倉家所有地（現在地）に移し、２５０回忌を修めた。

・文政９年に龍池義和（旧臣の子孫）が付近を拓き、碑の祭祀を司った。

【他の墓石】

・義景に殉じた鳥居景近と、高橋景倍の墓。

・明治４４年（1911）に建立。高徳院（義景の母）、祥順院（義景の夫人・小少将（諏訪殿）か）、愛王丸（義景の次男・享年４歳）を合祀。

・瀧池（龍池）家 先祖累代の墓。

【弐乗後主廟碑】

・文政９年（1826）に建立。義景の遺徳を称える。

【宝塔】

・明治３４年（1901）に境内を修理した時の記念塔。

# 伝 朝倉義景念持仏

観音菩薩立像です。洞雲寺（清瀧）において「朝倉さんの念持仏」と伝わりました。像高は３０ｃｍと大きく、念持仏としては大型ですので、陣中に安置した「陣仏」かもしれません。

義景の念持仏であるかの真偽は不明ですが、洞雲寺は一乗谷（福井市）を追われた義景が最初に入った寺院であり、こうした伝来は、同寺と義景の関係の深さを物語ります。

像の裏面には「越前 / 稲荷大明神 / 大野」「大龍山　洞雲寺」と刻まれています。観音菩薩を「稲荷大明神」とするのは、聖観音が伏見稲荷大社（上社）（京都市）の祭神・大宮能売大神の本地とされていることによると思われます。

後世に作られたとみられる厨子の扉裏に「朝倉義景公守神」「正一位喜代守稲荷大明神」、背面に「天保第十二稔四月十五日 / 現住泰成代新造 / 請管同月十二日」と、それぞれ墨書されています。厨子に墨書された「稲荷」と、像の裏に刻まれた「稲荷」を同体と見做すことができるのであれば、少なくとも天保１２年（１８４１）には、義景の守神として洞雲寺に安置されていたようです。

# 関係史跡

これまで見てきたように、大野郡は、
① 朝倉氏による越前支配が決定した地
② 郡司を配置して自律をもった統治が行われた地
③ 義景が最後に頼みの綱とした地
④ 朝倉氏１０３年の栄華が終焉した地
として、越前朝倉氏を知るうえで重要な地です。

大野市内には、朝倉氏関連の史跡が点在しています。ぜひ周遊してみてください。
※マナーを守って、周遊・見学してください。

| |
|---|
| 戌山城址　斯波氏が築城。朝倉氏が軍事的拠点とした。郭群や堀切、畝状竪堀群が残る。 |
| 小山城址　応仁の乱時、小山城は斯波氏の拠点として、越前での朝倉氏との最後の戦いの場となった。この勝利により、朝倉氏の越前支配が確定した。 |
| 北御門古墳　小山城での戦い後、朝倉光玖によって戦没者の菩提を弔うための「一字一石経塚」に転用された。 |
| 土橋城跡　斯波氏が築城。朝倉氏が政治的拠点とした。 |
| 光玖寺　初代大野郡司・朝倉光玖の館跡。 |
| 蓮光寺　応仁の乱の後、敵方・二宮氏の兵の菩提を弔うために朝倉光玖が建てた時宗道場を前身とする。 |
| 洞雲寺　朝倉家最後の当主・義景が一乗谷を離れて入った寺。前面の赤根川が堀の役割をもち、背面の山並みが寺域を守ることに適していた。この後、「六坊」に誘い出されて自害。 |

| |
|---|
| 曹源寺　寛政 12 年（1800）、中野村の豪農・松田氏が境内に「義景公御石塔」を建立。これにより、「当地が義景が自害した六坊賢松寺の跡ではないか」と考えられる。 |
| 朝倉義景墓　松田氏が、朝倉義景の 250 回忌にあたる文政 5 年（1822）に現在地に石塔を移して法要を営んだ。これにより、「当地が義景が自害した六坊賢松寺の跡ではないか」と考えられる。 |

大野と朝倉

二次元コードをスマートフォンカメラで読み込むと、グーグルマップが表示されます。